

米國經濟史の諸問題及び文獻について(一)

鳥羽欽一郎

一、序

二、總說的問題

三、植民地時代の諸問題

四、獨立戰爭をめぐる諸問題

一 序

米國經濟史という研究分野は、從來わが國においては未開拓の領域であつた。戰前、既に可成の研究書、譯業、論稿が發表されてはいたが、その多くは謂わば總論乃至教科書的段階を脱せず、オリヂナルな研究は殆んど皆無の状態にあつた。かかる理由としては、(一)、米國においては古代・中世史を缺き、わが國の研究者にとつて世界史的な共通課題としての研究―たとえば、封建制より資本制への移行といつた―の對象となし難く、ために不毛の儘放置されていたこと、(二)、米國における經濟史研究の遲滯、特に方法論に對する關心の稀薄さ―たとえば、史學と經濟史學との間にみられる不明確な領域區分―などのため、史學の領域においてはともかく經濟史の分野では研究者を吸引する魅力に缺けていたことなど、米國經濟史が本來有した研究對象としての制約性を指摘することができよう。

ところが、戦後わが國のおかれた國際的環境の變化と、米國が世界經濟に占める役割の著るしい向上に伴つて、一般に米國乃至米國經濟に對する研究は急激に増加した。かかる傾向は經濟史の領域においても例外ではなく、特に最近における西歐經濟史家の一九世紀に對する關心の増大につれて、この研究分野の急速なる充實が要請されるに至つた。幸いにして、最近われわれは米國經濟史に關する幾多のオリヂナルな研究の發表をもつに至つたのであるが、しかしこれとても、舊來の西ヨーロッパ經濟史の諸研究に比較するならば、質・量ともに未だしの感があると云わねばならず、更に一層の研究の深化を期さねばならない状態にある。

一般に、西洋史乃至西洋經濟史を研究するに際しては、先ず第一に研究史及び史料・文獻の研究が不可欠の前提として要請されることは云うまでもない。ところが、米國を研究對象とする場合に、(一)、研究史に關しては、史學に比して經濟史學が著るしく弱體であること、また、わが國の經濟史家が當面要請されている問題意識と相當の隔差があり、如何にしてこれを修正すべきかという問題に直面せざるを得ず、(二)、文獻に關しては、たとえは、Harvard Guide to American History の如く史學の領域では極めて詳細な書目があるにも拘らず、經濟史の分野ではこれを得がたく、豊富・雑多な文獻・史料から、われわれ自身の目的に應じて、不十分ながら取捨選擇せねばならぬ立場に置かれることなど、こうした事情は著るしくわれわれの研究を阻害していると云えよう。

かかる状態の下においては、米國經濟史研究にあつて最初になすべきことの一つは、米國及びわが國における研究史乃至問題史の整理であり、同時に、利用しうる史料・文獻類の所在の確認―外國史の場合にはこのことが最も重要である―でなければならぬ。特に戦後、各大學・圖書館とも被災により藏書を焼失した處も多く、また戦後收納カタログの發行には程遠い状況にある現在、各研究者相互の緊密な協力が、研究の發展のために絶対に必要であらう。

以下の紹介に關しては、(一)、問題史は便宜上極めて重點的に焦點を絞る、それに關連するものは補足的に採録した

こと、(一)、文獻は經濟史に重點を置き、歴史部門からは二次的にのみ採録したこと、(二)、外國雜誌論文は重要なもの以外省略したこと、(四)、掲載文獻のあとの()内の記號は早稻田大學圖書館藏書番號、また*はそれ以外の藏書を示すこと、を附記する。

二 總説的問題

經濟史研究にあつて、書目、研究史、辭典、地圖、統計、定期刊行物、史料の所在等の研究が必要なことは論ずるまでもない。さしあつて重要なものを左に掲げる。

1 方法論的研究

See, H., *The Economic Interpretation of History*. 1929 (ZH₁₆ 695) Callender, G. S., *Position of American History*. 1913 (ED 4504) Farnam, H. W., *The Economic Utilization of History and other Economic Studies*. 1913 Schlesinger, A. M., *New View Points in American History*. (ZH₂₄ 1025) Seligman, E. R. A., *The Economic Interpretation of History*. 1917 (ZH₁₆ 161, 275) Sinclair, H. M., *A Preface to Economic History*. 1934 Westernman, W. L., *Sources and Methods in Economic History*. (*The Journal of Science Quarterly*, March, 1922) Wright, C. W., *The Nature and Objectives of Economic History*. (*The Journal of Political Economy*, vol. 46)

以上の文獻は、米國經濟史に關する方法論の目安として擧げたにすぎない。われわれが米國經濟史を研究するにあつては、廣くわが國の經濟史學界の理論水準を前提とし、その上で問題の究明を行わねばならぬのは勿論である。その意味で、日本及び西歐經濟史における方法論・問題史に對する關心が必要とされる。

2 研究史・文獻目錄

經濟史として擧げられるのは Dept. of Agriculture, *References on Economic History as a Field of Research and Study*.

1936. Edwards, E. E., List of American Economic Histories. 1939. Beets' H. P., Bibliographies in American History, 2nd ed., 1942 があるが、十分なものはなく、最も詳細なのは、史學關係のものではないが Handlin, O. ed., Harvard Guide to American History. 1939 (*) である。總頁六九〇頁に及び、時代・問題別に微細なまでに論文を編羅してあり、既刊の關係書籍論文を識るのに便宜である。但し文獻解説は缺く。部別別文獻目錄として、Bemis, S. F., Guide to Diplomatic History of the U. S., R. ed. 1950 (DG 3342, 3310) Edward, E. E., Bibliography of the History of Agriculture in the U. S. 1930 Larson, H. M., Guide to Business History. 1950 (*) Turner, F. J. & Merk, F., List of Reference on the History of West. 1922 Work, M. N., Bibliography of the Negro in Africa and America. 1927 などがあるが、特にラースンの「企業史案内」は解説を含み、經濟史關係の重要文獻を多くとりあげているので價値が大きい。その他米國史の研究史として、Bellet, H. H., American History and Historians. 1952 (*) が新しいが必ずしも經濟史研究に直接役立つわけではなく。Latham, M., Taylor, G. R., & Whicher, G. F. eds., Problems in American History. 1949 一 (*) Leopold, P. W. & Link, A. S. eds., Problems in American History 1952 は、要を得た編集により問題別に諸家の意見を拔萃したもので經濟史研究のためにも便宜であり有益である。

邦語文獻としては、一橋大學新聞社編「經濟學研究の栞 第三卷西洋經濟史編」(昭二五)の小原敬土氏の紹介が最も精しいが現在では、更に補充されるべきであろう。この點井上幸治・林健太郎編「西洋史研究入門」(昭二九)の清水博氏の紹介は新しい文獻を多く含み有益であるが、經濟史を對象とするものではない。論文としては、高村象平「最近十年間の米國經濟史學界」(社會經濟史學「一六の三」、高村象平・中村勝巳「アメリカ經濟史學界最近の動向」(同「二〇の四・五・六)が問題史的にも重要であろう。わが國の米國研究は、經濟史より歴史の方が傳統も古く量的にも多いため、史學關係の論稿の方が遙かに多い。研究史としては中屋健一「米國史研究入門」(昭二七)が適切に米國史學史を紹介しており、論文としては、今津晃「二十世紀アメリカ史學の歩み」(「ヒストリア」第四號)、ジョージ・H・ノールズ「最近におけるアメリカ史學の發達」(「史學雜誌」昭二五・一月號)高木八尺「アメリカにおける歴史研究の動向と吾國のアメリカ研究に關する一示唆」(「アメリカ研究」一九五〇・一〇

月號) 豊川良一「最近のアメリカ史學」(「歴史學研究」一六四號) 中屋健一「米國における南部史研究の現況」(「史學雜誌」六〇篇六號) などがある。

3 辭典類・地圖

經濟史辭典はないので、歴史辭典その他を利用しなければならぬ。一番大きなものは Adams, J. T. ed., *Dictionary of American History*. 5 vols. 1951 (*) や *最近のアメリカ史* Morris, R. B. ed., *Encyclopedia of American History*. 1953 があり、年表・問題頭・人名と三冊に分けて記述している。その他 Martin, M. & Gelber, L. eds., *The New Dictionary of American History*. 1952 (*) が有名で、利用度が高い大衆的なもの。故紙辭典 *Smith, E. C. & Zurcher. A. J. eds., Dictionary of American Politics*. R. ed. 1946 年表 *Kull, Irving S. & Nell M. eds., A Short Chronology of American History*. 1952 (*) が有名。その他 Seligman, E. R. A. ed., *Encyclopedia of the Social Science*. 15 vols. 1930-34 (*) が利用が高い。最後に人名辭典 *Johnson, A. & Malone, D. eds., Dictionary of American Biography*. 22 vols. 1928-44 (*) が極めて盛大・詳細なものであり、經濟史研究でもいろいろ類々価値が大である。邦語では『世界國史辭典』が常用度が高い。

帝國 *Paulin, C. O. & Wright, J. K., Atlas of the Historical Geography of the U. S.* 1932 (*) Lord, C. L., *Historical Atlas of the U. S.* 1955 (*) が有名で、後者は臺灣史研究にも多少の参考になる。その他 Hart, A. B. & Bolton, H. E., *American History Maps*. 1919 (AB 214I(3))

4 定期刊行物

政府の定期刊行物以外の主要なものを挙げて American Economic Review (*) American Historical Review (TS. 7) Agricultural History (TS. 4) The Business History Review (*) (J) のほか Bulletin of the Business Historical Society や Harvard Business Review (TS. 84) Journal of Economic and Business History 1928-32 (SE. 69) Journal of

Economic History. (*) Political Science Quarterly. (*) Quarterly Journal of Economics (*) 地方史としての Journal of Southern History. The Mississippi Valley Historical Review などが重要であろう。

5 史料集・文献抜萃・傳記

外國經濟史の研究のためには、刊行された基礎史料集が第一次的に重要であるのは論を俟たない。しかるに、米國經濟史においては他のヨーロッパ。經濟史に比して、この分野で大いに遜色があると云わねばならぬ。その理由は、米人史家の述べているように、「米國の歴史が新しく、傳統に對する關心が極めて薄い」ためであろうが、そのためわれわれは第二次史料から引用しなければならぬことが多い。幸い、最近歴史的史料集の刊行の増加がみられるが、その多くは大學教育を目的としたものであり、必ずしもわれわれを満足させるものではない。しかし、政府文書、議會記録、外交文書等は龐大であり、今後の研究に俟つべきものが多い。

經濟史關係のものは Bogart, E. L. & Thompson, C. M., Readings in the Economic History of the U. S., 1916
 Flügel, E., Documents Relating to American Economic History, 1651-1820. 1927 Cole, A. H. & Others, Facts and Factors in Economic History. 1932 Callender, G. S. ed., Selections from the Economic History of the U. S., 1765-1860. with Introduction Essays. 1909 Rand, B., Selections Illustrating Economic History since the Seven Year's War. 1903 (E 603) 等が一般的なものであるが個別的なものとしては、企業史の關係の Gras, N. S. B. & Larson, H. eds., Case Book in American Business History. 1938 (*) 勞働史の關係の Commons, J. R. eds., A Documentary History of American Industrial Society. 10 vols. 1910 (E1 4614) 奴隷貿易史の關係の Donnan, E. ed., Documents Illustrative of the History of the Slave Trade to America. 4 vols. 1930-35. など種々なものがある。

國史資料としての資料のものは、Jameson, J. F. ed., Original Narratives of Early American History. 19 vols. 1906-19 Wolfe, D. M. ed., Leveller Manifestoes of the Puritan Revolution. 1944. Haller, W & Davis, G., The

Leveller Tracts, 1647-1653. 1944 歴史叢書之歴史 Morison, S. E., Sources and Documents Illustrating the American Revolution, 1764-1788. 1929 (ZH 9, 148) 蘭英戦争史 Elliot, J., The Debates in the Several State Conventions on the Adoption of the Federal Constitution. 5 vols. 1836-45. (ZH 9, 972) 歴史叢書之歴史 Fleming, W. L. ed., Documentary History of Reconstruction...1865 to the Present Time. 2 vols. 1906-7. (A 1529) 歴史叢書之歴史 邦令・憲法・大統領の論議などについて Commager, H. S. ed., Documents of American History. 1934 (AG 3099) McDonald, W. ed., Documentary Source Book of American History. 1606-1926. 1934 —, Select Charts and Other Documents Illustrating of American History, 1606-1775. 1889 Richardson, J. D. ed., Complication of the Messages and Papers of the Presidents, 1789-1897 1907 (D. 1590) Birley, R. ed., Speechs and Documents in American History 1865-1913. (The World's Classics Edition) (*). 邦令・憲法・大統領の論議などについて Warfel, H. R. & Others eds., The American Mind. 1937 Manning, T. G. & Others eds., Select Problems in Historical Interpretation, 1775-Present, 2 vols. 1940-50. —, The People shall Judge 2 vols. 1949 Billington, R. A. & Others eds., The Making of American Democracy, Readings and Documents. 1950 (AG, 3183) Hefner, R. D., A Documentary History of the U. S., 1952 (AG. 3189) (J) の歴史叢書之歴史 邦令・憲法・大統領の論議などについて Hacker, L. M. & Zolner, H. S. eds., The Shaping of American Tradition, 1947. Beard, A. C., Contemporary American History (AG. 2157) Hart, A. B., American History told by Contemporaries, 1898-1923, 4 vols. (ZH 21 3593). Handlin, O. ed., This was American: True Accounts of People and Places, Manners and Customs, as recorded by European Travelers to the Western Shore in the 18 th, 19 th and 20 th centuries. 1949 などなどなど。

邦文では、アメリカ學會譯編「原典アメリカ史」五卷、世界歴史辭典編集委員會西洋部會編「西洋史料集成」(昭三二)があるが、補助的に役立つ。傳記に關しては、米國の特色として、秀れたものが數多く刊行されている。この中で取あげることが不能なのは、前記 Dictionary of American Biography の各人名項目末に附記してあるものをとりあへず参照されたこと。

米國では、大學教育を目的として出版されたものが多いため、一般史の数は殆んど無数をこいつつてしまつて居る。その中で古典的でも現代的でも、經濟史の研究に役立つものを探検する。

Bogart, E. L., *Economic History of the U. S.* 1938 (著者は經濟史の翻譯「トキナロ經濟史」(註16)) —, *Economic History of the American People*, 1936 Carman, H. J., *Social and Economic History of the U. S.* 2 vols. 1930-34 (AG. 3094)

Farrand, Max., *Development of the U. S. from Colonies to a World Power*, 1918 (ZH 3 349, 662) (著者は三巻・寛永に尺牘「トキナロ經濟史」4・1) Faulkner, H. U., *Economic History of the U. S.* 1928 (ED. 5009) (著者は一巻「トキナロ經濟史講話」(昭八)岡本廣作譯「トキナロ經濟史」(註14)) —, *American Political and Social History*, 6 ed. 1952(DD. 3613)

—, *American Economic History*, (*) Flügel, F. & Faulkner, H. U., *Readings in the Economic and Social History of the U. S.*, 1929 Hacker, L. M. & Kendrick, B. B., *The U. S. Since 1865*. 1932 (ZH 24 4386) Hacker, L. M. & Others, *The United States: A Graphic History*, 1937 (中江國徳譯「トキナロ寛永から維新の歴史」(註17)) Hacker, L. M., *The Triumph of American Capitalism*, 1940 (ED. 5426) (中江國徳譯「トキナロ寛永から維新の歴史」4・1) Hamphrey, E. F., *An Economic History of the U. S.* 1931 (ED. 4688) Jennings, W. W., *A History of Economic Progress in the U. S.* 1926 (ZH 17 540, ED. 3875) Kirkland, E. C., *History of American Economic Life*, 1932 (ED. 4743) Lippincot, I., *Economic Development of the U. S.*, 1921 (ED. 1726, ZH 17 390) Lippincot, I. & Tucker, H. R., *Economic and Social History of the U. S.* 1939, (ED. 4364) Rochester, Anna, *American Capitalism*, 1607-1800. 1949 (*) Sakolski, A. M. & Hoch, M. L., *American Economic Development, An Introduction to Present Economic Problems*. 1936 (ED. 4986)

Schlesinger, A. M., *Political and Social Growth of the U. S.*, 1852-1933. 1935 (ZH 24 914) —, *Paths to the Present*. 1949 Shannon, F. A., *Economic History of the People of the U. S.*, 1934 (ED. 4834, ZH 17 814) —, *America's Economic Growth*, 1940 (*) Simons, A. M., *Social Forces in American History*. 1912 (AG. 2715) (藤枝史・森三龍米譯「トキナロ

社會發展史(歴史) Wright, C. W., Economic History of the U. S. 1941 (*) Williamson, H. A., The Growth of the American Economy (*) 米國經濟史の発展 Mitchell, B. & Mitchell, L. P., American Economic History, 1947 McGrane, R. C., The Economic Development of the American Nation, R. ed., 1950 Craif, J. R., Economic Development of the U. S., 1952 Bining, A. C., The Rise of American Economic Life, 1949 米國經濟史の発展 トーマスター・ベッター・フーテン・ヒル・シムソン・ハート・ヒュー・ハート・マクミレンの著 題意は、ベッター・ベッターの「資本主義の歴史」の題意を眼せしめられた。

米國史の発展の歴史をたどる。その中で Adams, J. T., Epic of America, 1931 (ZH 24 3162, 3143) (米國史の発展) 「米國史」(歴史) —, History of the U. S. of America, 9 vols. 1921 —, History of American People, from Civil War to World Power. 2 vols. 1933 (AG. 3090) Beard, C. A. & M. R., A Basic History of the U. S. 1944 (批評家・歴史家・知識家・歴史家) Becker, C. L., Beginnings of American People. 1915 (ZH 24 457) Carman, H. J. & Mckee, S., History of the U. S., 1931 (AG. 3084) Channing, E. A., A History of the U. S. 6 vols. 1905-25 (ZH 24 883) Dumond, D. L., History of the U. S., 1942 (AG. 3157, 3158) Farrand, L., Basis of American History, 1904 (*) Barnes, J. A., Wealth of the American People, 1949 Hockett, H. C., Political and Social Growth of the American People. 1492-1865, 1933 (DD. 3174) McMaster, J. B., History of the People of the U. S. from the Revolution to the Civil War. 8 vols. 1924-27 (AG. 167, ZH 24 1286) Morison, S. E., The Oxford History of the U. S., 1783-1917. 2 vols. 1928-29 Morison, S. E. & Commager, H. S., The Growth of American Republic. 2 vols. R. ed., 1950 Nettles, C. P., The Roots of American Civilization. 1938 Oberholzer, E. P., A History of the U. S. Since the Civil War, 5 vols. 1917-31 Rhodes, J. F., History of the U. S. from the Compromise to the End of the Roosevelt Administration. 9 vols. 1929 Riegel, R. E. & Long, D. F., American Story. 2 vols. 1955 (AG. 3210) Schlesinger, A. M., The Rise of Modern America 1865-1951, 1951 (AG. 3187) Wilson, W., History of the American People. (ZH 24 1960, 1621) 米國史の発展

- Barnes, H. E. & David, H., *The History of Western Civilization*, 1935 (AD. 3409) Beard, C. A. & M. R., *The Rise of American Civilization*, 4 vols. 1927-42 (ZH₂₄ 1557. AG. 3025) (銀田銀 American Spirits, 1948 (AG. 4148, 3159) 4種本へ尺・松本善喜訳「トマソフ史世の歴史」 第三卷まで America in Midpassage, (AG. 3121)) Beard, C. A., *Contemporary American History*, 1877-1913, 1918 (AG. 2157) Becker, C. I., *United States, An Experiments in Democracy*, 1920 (DD. 2017. ZH § 699) Green, E. B., *The Foundation of American Nationality*, 1922 (ZH₂₄ 2997) Hart, A. B., *New American History*, 1921 (ZH₂₄ 1171) Hockett, H. C. & Schlesinger, A.M., *The Land of Free*. 1944 McMaster, J. B., *Brief History of the U. S.* 1918 (ZH₂₄ 887)—, *United States in the World War*. 1918 (D. 1512) Nevins, A. & Commager, H. S., *Pocket History of the U. S.* 1951 (AG. 3197)—, *Ordeal of the Union*, 2 vols. 1947 Ogs, F. A., *National Progress*. (D. 1353. ZH₂ 777) Osborn, F., *Our Plundered Planet*, 1948 Potter. D. M., *People of Plenty, Economic Abundance and the American Character*, 1954 (*) Savelle, Max., *Seeds of Liberty*, 1948 Windsor, J. ed., *Narrative and Critical History of America*, 1884-89. 452頁あり。

米國には歴史關係の叢書類が多く出版されてゐる。その多くは執筆者が問題別に分擔し全訳されたといふ編纂されてゐる。ただ、この「アメリカの中心は經濟史といつて有餘なものが少くない。たゞそれ」 Hart, A. B. ed., *The American Nation: A History*, 28 vols. 1901-18 (ZH₂₄ 1434) *The Chronicles of American Series*, 50 vols. 1918-21, 6 Supplementary vols. 1950-51 (ZH₂₄ 3174) Hart, A. B., ed., *Epoch of American History*, 4 vols. 1926-29 (ZH₂₄ 1359) Gabriel, R. H. ed., *Pagent of America*, 1925-29, 15 vols. (AG. 3074) Schlesinger, A. M. & Fox, D. R. eds., *A History of American Life* 13 vols. 1927-48. Adams, J. T., *Album of American History*, 5 vols. 1944-49. 452頁大木がのりあり。經濟史といつて David, H. & Others eds., *The Economic History of the U. S.*, 5 vols. 1945-51. 4種あり。この「先づ戦前のものをあつて、石濱知行「アメリカ資本主義發達史」(四五) 猪谷善一「アメリカ經濟史概説」あり。

- (昭一〇) エフ・エル・アレン著福田實譯「米國現代史」(昭一五) 鹽野谷九十九「アメリカ經濟の發展」(昭一六) 高木八尺「米國政治史序説」(昭六) 恒松安天「アメリカ史總説」(昭一六) 藤原守胤「アメリカ建國史論」(昭一五) ボクロフスキー監輯マルクス主義世界史第一編、廣島定吉譯「北米合衆國史」(昭七) 堀江保藏「アメリカ經濟史概説」(昭一二) 丸岡重堯「アメリカ經濟史」(「經濟學全集」二九卷、昭四) などがある、戦後のものでは、小原敬士「アメリカ資本主義の形成」(昭二三) 岡本廣作「アメリカ經濟史」(昭二三) J・K・ガルブレイン著藤瀬五郎譯「アメリカの資本主義」(昭三〇) 神野章一郎・宇治田富三「アメリカ資本主義の生成と發展」(昭二三) 兒玉洋一「アメリカ經濟史綜説」(昭二五) 鈴木圭介「アメリカ經濟史研究序説」(昭二四) 高山洋吉「アメリカ資本主義發展史」(昭二四) 長守善「アメリカ政治經濟史」(昭二二) 中屋健一「米國史」(昭二三) 同「アメリカ社會の發展」(昭二四) ハーシュェル・メーヤー著安田正美譯「アメリカ現代史」(昭二九) レオ・ヒューマン著小林良正・雪山慶正譯「アメリカ人民の歴史」上・下(昭二九) A・J・Y・プラウソン著渡邊誠毅譯「アメリカ資本主義發展史」(昭二七) 堀江忠男「ニュー・ディール以後のアメリカ資本主義」(昭二九) 猪谷善一「アメリカ經濟史」(昭二三) などがあげられ、その他では武藤光期「アメリカ資本主義論理」(昭二二) タセジュ文庫「アメリカ史」都留重人「アメリカ經濟の發展」(昭二六) アンドレ・モーロワ著鈴木福一譯「アメリカ史」上・下(昭二四) 米國大使館文化交流局「アメリカ史概観」(昭二九) などが若干補助として役立つであらう。

關連書目として思想史をあげるならば、最も重要なものは Curti, M. E., *The Growth of American Thought*, 1943 Dorfman, J., *The Economic Mind in American Civilization*, 2 vols. 1946-49 (*) 及び Gabriel, R. H., *The Course of American Democratic Thought*, 1940 Parrington, V. L., *Main Currents in American Thought*, 3 vols. 1927-30, (ZHG 754) White, M. G., *Social Thought in America*, 2 vols. 1949 Wish, Harvey, *Society and Thought in America*, 2 vols. 1950-52 Egbert, D. D. & Person, S. eds., *Socialism and American Life*, 2 vols. 1952 邦語では、小原敬士「アメリカ經濟思想の潮流」(昭二六) 思想の科學研究會編「アメリカ思想史」五巻がある。

三 植民地時代の諸問題

コロンブスによる新大陸の発見は一四九二年のことであるが、この発見は、當時イタリア、スペインなどを中心に繁榮していた商業資本が、東方への通商路の発見、また黄金に對する魅力にかられて行つた探検の齎らした偶發的結果に過ぎなかつた。事實ニュー・イングランドに對して本格的植民が開始されるのは、なお一世紀以上も後のことであり、それ以前においては、ペルー、西印度諸島—その遣制は米國南部のプランテーション・システムとして殘存するが—などに行われた、前期的資本による近世植民制—奴隸制に外ならなかつた。したがつてこの問題は、當時のヨーロッパ經濟史の發展段階と植民地アメリカという關連において捉えねばならず、のちの南部奴隸制のいわば前史として一つの重要な問題を提起するものであるが、ここでは普面を兼ねることとする。

アメリカ大陸発見の歴史的背景については、次のものがある。

- Brebner, J., *The Explorers of North America, 1492-1806*, 1933 (AG, 3091) Cheyney, E. P., *European Background of American History*, 1904 (ZHg, 1434, 1) Fiske, T., *Discovery of America*, 2 vols, 1992 (ZHg, 566) Harrisse, H., *Discovery of North America: A Critical, Documentary, and Historic Investigation, with an Essay on the Early Cartography of the New World*, 1892 Hayes, J. C., *A Political and Social History of Modern Europe*, vol. 1, 1917 Lybyer, A. H., *The Influence of the Ottoman Turks upon the Routes of Oriental Trade* 1914 Markham, C. R., *Life of Christopher Columbus*, 1892

なお、米國經濟史と直接關係をもつものではないが、米國初期の發展を規制した諸條件の一つとして、アメリカの

有する特異な地理的環境を擧げねばなるまい。米國經濟史は、舊大陸諸國の如く社會的發展法則の必然性としてそれ自體の内部から發展したのではなく、謂わば舊大陸の經濟的發展の横への擴散として開始されたものである。原始共同體の社會の下にあつたインディアン原住民とのちのヨーロッパ植民とは、若干の農耕作物を除いて全く無縁であり、自然的諸條件の克服がアメリカ經濟社會のその後の發展にとつては大きな問題であつた。たとへば「フロンティア」の問題がそうであり、また米國の獨立に際しては、舊大陸との地理的隔在性が如何に大きな役割を果したかは、周知のことである。

- 自然地理條件のついでに、Brigham, A. P., *Geographic Influences in American History*, 1903 Brown, R. H., *Historical Geography of the U. S.*, 1948 Colby, C. C., *Source Book for the Economic Geography of North America*. 1921 (ED. 1725. ZH₁₇ 446, 529) McCarthy, H. H., *The Geographic Basis of American Economic Life*, 1940 (地理學雜誌「トマス・メカリー著」(註17)) Semple, E. C., *American History and its Geographic Conditions*, 1904 (ZH₁₄ 1803. AG. 2014) Smith, J. R., *Man and Resources, A Study of North America and its Place in World Geography*, 1925 (ZH₁₇ 524)
- またトマス・メカリー著「トマス・メカリーの地理學」Morgan, L. H., *The League of the Iroquois*. 1815 —, *System of Consanguinity and Affinity of the Human Family*, 1866 —, *Ancient Society, Researchs in Lines of Human Progress from Savagery through Barbarism to Civilization*, 1877 (ZH₁₄ 907. A. 1511) (地理學雜誌「トマス・メカリーの地理學」(註17))
- メカリー著「トマス・メカリーの地理學」Huntington, E., *The Red Man's Continent*, 1919 (AG. 3075. 1) Leupp, E. E., *The Indian Problems*, 1910 Lindquist, G. E. E., *The Red Man in the U. S.* 1923 Merriam, C. H., *Studies of California Indians*, 1955 (*) Wissler, C., *Indians of the U. S.*, 1943 —, *The American Indians*, 1937 Heizer, R. F. & Mills, J. E., *The Four Ages of Tsurai*, 1952 Debo, A., *The Road to Disappearance*, 1941. Harmon, G. D., *Sixty Years of Indian Affairs: Political, Economic and Diplomatic*, 1786—1850. 1941

北アメリカに對するヨーロッパ人の植民は、十六世紀以後各國によつて行われたが、夫々の國家の發展段階に應じて、その型を異にしている。カナダ、ミシシッピー河流域のフランス人、フロリダ、メキシコ、カリフォルニアのスเปน人、ハドソン河流域のオランダ人と各地に植民したが、一七世紀初頭に始るイギリス人の植民活動に比すれば、いずれも本格的なものではなく、毛皮・貴金屬・貿易・植栽企業などを目的とする、いわば前期的資本の經濟活動であつた。そのため、定住植民地としての性格は稀薄であり、英國の植民の展開につれ次第に壓迫されてゆく。

メキシコの植民制度・植民地の研究については Simpson, L. B., *The Encomienda in New Spain*, 1929 Prescott, W. H., *The Conquest of Mexico*, 1843 —, *The Conquest of Peru*, 1847 Haring, C. H., *The Spanish Empire in America*. 1947 Moses, B., *The Establishment of Spanish Rule in America*, 1898 Rosher, W., *The Spanish Colonial System*, 1904 Broune, E. G., *Spain in America*. 1904 トロントに關しては Innis, H. A., *The Fur Trade in Canada*, 1930 Stevens, W. E., *The Northwest Fur Trade 1928 Munro, W. B., Crusaders of New France*, 1918 Parkman, F., *The Old Regime in Canada*, 1873 Thwaites, R. G., *France in America*, 1497-1763, 1905 トロントに關しては Fiske, J., *Dutch and Quaker Colonies in America*, 2 vols, 1899 Janvier, T. A., *The Dutch Founding of New York*, 1903 などの他に一般史として Payne, E. J., *History of European Colonies*, 1889 Morris, H. C., *The History of Colonization from the earliest times to the Present Day*, 1900 Priesseley, H. J., *The Conning of the White Man*, 1929 がある。

英國人の植民は一六二〇年のニュー・プリマス植民に始るが、先ず問題とされるべきは、英本國の植民政策である。本國政府が植民地に對して採つた政策は、あくまでも當時の英國の經濟構造を反映したものであり、植民地創設に際しては、封建的諸制度を移入せんとする不斷の努力が試みられている。云いかえるならば、本國は植民地に建設

さるべき諸制度を當時の英國の經濟・社會制度の延長として考え、また植民地經濟が發展するや、これを重商主義的に支配せんとしたのである。したがつて、英國植民の研究には、當時の英國の經濟構造と、その反影としての政策の研究が必要とされる。

イギリス本國の經濟構造については、勿論英國經濟史の分野に屬すが、こゝではとりあえず、Lipson, E., *The Economic History of England*, 3 vols. 1915-31 (ED. 1223) Lecky, W. E. H., *History of England in the 18th Century*, 8 vols. 1879-90 (ZH₄, 1156) Nannier, L. B., *The Structure of British Policies at the Accession of George III*. 2 vols. (ZH₄, 740) をあげておく。邦文では矢口孝次郎「イギリス政治經濟史」(昭一九)がある。

英國の植民政策については、Seeley, J. R., *Growth of British Policy*, 2 vols. 1895 (ZH₆, 655, DG, 3145) Beer, G. L., *British Colonial Policy*, 1754-65, 1907 (ZH₁₇, 340) —, *The Old Colonial System, 1660-1754*. 2 vols. 1912 Hertz, G. B., *The Old Colonial System*. (D. 559) Beer, G. L., *The Origin of British Colonial System, 1578-1660, 1908* (ZH₁₇, 364) Egerton, H. E., *A Short History of British Colonial Policy*, 1897 (ZH₁₇, 382) がある。

植民地時代とは、一七八三年の獨立戰爭の終結までを云うが、この期間における經濟的發展は、目覺しいものがあった。既にニュー・イングランド、中部、南部植民地と、地域的區分を異にする經濟單位は獨自の展開を遂げ、また西漸運動はアパラチアン山脈に達し、新しい勢力として登場しようとするに至つた。東部の商・工業、中・南部のプランテーション、西部の自營農民と、セクションによる經濟發展の類型が形成され、以後米國經濟史の展開を規定する諸傾向は、すでに明瞭な形で打出されるに至つた。この期間を扱う一般的文獻は數多いが、その中で重要なものを擧げよう。

Andrews, C. M., *Colonial Period of American History*, 4 vols. 1934-38 Wright, L. B., *The Atlantic Frontier: Colonial American Civilization, 1607-1763*. 1947 Osgood, H. T., *American Colonies in the 18th Century*, 4 vols. 1924-1925. —, *American Colonies in the 17th Century*, 3 vols. 1904-1907 Doyle, J. A., *English Colonies in America*, 5 vols. 1889-1907 Gipson, L. H., *British Empire before the American Revolution*, 5 vols. 1936-1942 (AD. 3471) Channing, E., *A History of the United States*, 6 vols. 1905-1925 (ZH₂₄ 395) ①—② 黎 Bolton, H. E. & Marshall, T. M., *The Colonization of North America, 1492-1783*, 1925 Jernegan, M. W., *American Colonies, 1492-1750*, 1929 (ZH₂₄ 1359) Bancroft, G., *History of the U. S.*, 10 vols. 1861-1875. (AG. 116. ZH₂₄ 1168) なちむん。

植民の當初から、ニュー・イングランドと南部植民地とはその性格を異にしていた。ニュー・イングランドは、本國から脱出したピューリタン移民を主體とし、農業に適する土地を缺くために、本國政府は放任政策をとり、自由な植民地として發展したが、これに對して肥沃な南部植民地においては、その經濟的期待から本國の統制が強く、大地的土地所有—プランテーション・システム—が一般的に成立した。プランテーション制度は、封建的土地所有とは異なるが、あくまでも「前期的」性格のものであり、地主も本國の貴族階級との密接な關係にあり、資本主義の正常な展開を阻止する非近代的性格のものであることが注意されるべきである。これに對してニュー・イングランドにおいては、最初から自由な土地所有が確立し、町區拂下制度に基づいて、自由なる獨立自營農民が創出された。その結果、本國政府の抑制政策などによりその經濟發展は遅々たるものであつたが、こうした農民層を母胎とする資本主義の展開は着々と進展し、本國政府の重商主義的諸統制を廢除しながら、所謂「アメリカ型」資本主義發達の途を準備してゆくのである。したがつて、それぞれの地域における植民の形態、またその經濟活動のイニシアティブを握つた階層の問題、さらに究極的には、各植民地における土地制度の問題の研究が重要である。

Company, 1763-1798: A study in the 18th Century Frontier Land Speculation and Business Venture. 1941 がある。邦文では、平出宣道「タウンにおける土地配分の条件—タウン・システムの研究—」(『明治學院論叢』三八・三九・四〇號) 王谷宗市郎「イギリス植民時代北アメリカ北部土地保有制度の性格」(『社會經濟史學』一四の七)

米國經濟史を一貫する特殊な現象は、勞働力の問題である。植民地は最初から勞働者を缺いていたため、本國政府及び植民地企業家はその補充に大きな努力を拂わねばならなかつた。この問題は種々の形態による移民によつて解決を圖られたのであるが、南部における黒人奴隸制が本格的に開始されなかつた植民地時代においては、白人の契約奴僕制度がその主たる勞働供給源であつた。米國史を語る時、多くピューリタン移民によるデモクラシーについて述べられるが、實は植民地アメリカにおいて、本國政府、植民地の貴族的支配階級にとつてより重要であつたのはこれら半強制的勞働力であり、數的にも、アメリカ來住移民の大きな部分を占めている。彼らは本國における本源的蓄積の進行の結果創出された過剩人口であり、植民地企業を利益あるものとするため新大陸に送られたが、特に中・南部の半封建的植民地企業における勞働力の骨幹となり、ついで東部沿岸地帯の寡頭權力の支配から脱して西部に脱れるや、進取果敢な開拓農民となり、アメリカ民主主義の擔手として登場する。したがつてわれわれは、移民の問題を考へる時、單に人口の流入ということではなく、何故移民がアメリカに渡來したか、その社會經濟的役割は何であつたかという事情が重視されねばならない。

移民の一般的な文獻は、Hansen, M. L., *The Atlantic Immigration, 1607-1860*, 1940 Johnson, S. C., *A History of Emigration from the United Kingdom to North America, 1763-1912*. 1913 (ZHI, 561) Fairchild, H. P., *Immigration*, (EK, 2860) Wittke, C., *We Who Built America, 1939* Wartenbaker, T. J., *The First Americans, 1927* (*) Sachsoe,

W. I., The Migration of New Englanders to England. 1640-60. (Ame. Hist. Rev. 1948 No. 2) なひなせふ' せなせ國
○總武とらふせ' Notestein, W., English People on the Eve of Colonization, 1603-1630, 1954 (AD. 3907) Tyler, L. G.,
English in America, 1580-1652, 1904 (ZHG₄ 1434) Former, P. S., Jews in American History, 1654-1865, 1945 (*) Ford,
J. H., Scotch-Irish in America, 1915 Bolton, C. K., Scotch-Irish Pioneers, 1910 Faust, A. B., The German Elements in
the U. S., 1909 (ZHG₄ 1988) Commance, J. R., Race and Immigrants in America, 1908 (ZHG₂₅ 25. LC. 314) せせせ。

英の奴隷制度とらふせ' Ballagh, J., White Servitude in the Colony of Virginia, McCormack, E. I., White Servitude
in Maryland, 1904 O Neal, James., The Workers in American History, 1921 (ZHG₁₈ 343) Smith, A. E., Colonists in
Bondage, 1947, —, The Indentured Servant and Land Speculation in 17th Century Maryland (Ame. Hist. Review. vol.
40 No. 3) Wilson, W., Forced Labor in the U. S. (ZHG₁₈ 369) せな植民地せせの勞働一説とらふせ' Jernegan, M. W.,
Laboring and Development Classes in Colonial America, 1607-1783, 1931 McKee, S., Labor in Colonial New York
(EG. 5157) Morris, R. B., Government and Labor in Colonial America, 1941 邦語のせとらふせ' 島羽欽一郎「北米植民地
における契約奴隷制度とらふせ」(早稻田商學)九八號) 河村盛一「アメリカ植民地時代における勞働形態とらふせ」(神戸外
語大學論叢)二(六一)

植民地時代を通じて、地域による經濟構造の分化は、益々明瞭な形をとるに至つた。この原因は、主としてその植
民地の占める地理的諸條件の差異と、前にも述べた如く、本國政府の政策と關連した植民方式の差異に基づくもので
あつた。自由な植民方式によつて植民されたニュー・イングランドでは、土地の不毛と寒冷な氣候とのために、農業
における發展はみるべきものがなく、自給自足の段階を越えることはなかつた。しかしこのために、南部にみられた
強制勞働に基づく勞役形態の一般的普及はみられず、植民者は廣く獨立自營農民として自立し、家内工業の擔當者と
なり、地方市場の擴大とともに小商品生産者として向上してゆくことができたのである。これに反して、ヴァージニ

ア、カロライナ、メリーランドなどの南部植民地においては、一七世紀初頭以來煙草・米・藍のプランテーションが發達し、歐州市場の獲得によつて急速に繁榮にと向うが、粗放耕作を基礎とするため絶えず廣大な土地を必要とし、他の諸産業を犠牲とするプランターの寡頭專制權力を築き上げてゆくのである。

このような地域的經濟構造の差異は、當然他の産業にも影響を與えた。南部においては、特定のプランテーション商品生産のため、工業の發達は全く抑止されて失い、また中部植民地においても、ハドスン流域にみられた大土地所有制の展開のため幾多の障害を蒙り、いわば「パン植民地」として穀物輸出を中心とすることとなつた。これに反してニュー・イングランドにおいては、本國の重商主義政策に刺戟されつつ早くから造船・海運・魚業等に進出し、また植民地政府による保護助長政策の下で、船舶用品、鐵工業、その他の工業製品の生産を著しく前進させることが出來たのである。とは云え、植民地時代のニュー・イングランド工業は未だ資本制生産段階と云うことは出來ない。工業に投下された資本は、本國からか或いは貿易業者の前期的利潤から齎されたものであり、工場自體においても生産・勞働の法的規制など、極めて前期的性格の強いものであつた。しかし、それにも拘らず、廣く農民を母胎として展開する小商品生産の發展は、度重なる本國政府の重商主義的統制を廢除して、着々進出してゆくのであり、われわれは、米國資本主義の芽生えを、植民地政府により保護をうけ、あるいは建設された工業の中にはなく、こうした農民の商品經濟の展開の中に求めねばなるまい。

植民地時代注意すべき問題の一つは、海運業を中心として形成された、ニュー・イングランド商業資本の巨大な發展である。密輸・海賊行爲すら含むこの商業資本の活動の中で特に大きなものは、かの有名な三角貿易である。中でも、ニュー・イングランド―佛領、西牙領西印度諸島―アフリカを結ぶ奴隸貿易は、のちには南部プランテーション奴隸勞働力の供給源となり、米國經濟史上大きな問題となるのであるが、植民地時代においても、北部商業資本蓄

積の大きな横杆の一つとして注意されねばならない。こうした貿易に足場をおく商業資本に比較して、國內市場の發展は遅々たるものがあつた。植民地時代の内陸交通は未だ河川を利用するのが主であり、人々の最も稠密であつたニュー・イングランド南部においてさえ車馬の交通は不便であり、したがつて生産物の運搬は尙更であり、市場の展開—商品生産の普及は著るしく制約されざるを得なかつたのである。かくして、植民地時代の北アメリカの一般的經濟状態は、極めて概括的に云つてニュー・イングランド沿岸に根を張る特權的商業資本の經濟組織、中・南部の封建的プランテーション、東部から西部にかけて廣汎に散在する自營農民層の半自給的經濟組織三者から形成されてきた。すなわち、流通機構を主體とする經濟機構が支配的であり、そうした網の目の中に、生産者を主體とする生産機構の展開が覆われていたと云いうるであらう。

農業史のついでに Edwards, E. E., *Bibliography of the History of Agriculture in the U. S.*, 1930 が文獻目録として、*Woodward, C. R., ploughs and Politics*, 1941 Hector, st John Crevecoeur, *Letters from an American Farmer*, 1782 (*) Carman, H. J. ed., *American Husbandry*. 2 vols 1775 (*) などがある。農業史の Bidwell, P. W. & Falconer, J. I., *History of Agriculture in the Northern U. S.* 1620-1860, 1925 Gray, L. C., *History of Agriculture in Southern U. S.* to 1860. 2vols. 1933 が最も精こつた。概してアメリカの農業史に關する文獻はロンドンにマサチューセッツ大学農業史研究叢書やオックスフォード大学に Hendrick, Lonn, E., *The Colonial Merchants of the Southern Colonies*, 1945 Tolles, F. B., *Meeting house and Counting house: The Quaker Merchants of Colonial Philadelphia*, 1682-1763, 1948 *Agriculture in New York*, 1933 (EE. 4683) Ellis, D. M., *Landlords and Farmers in Hudson-Mohawk Region*, 1946 などとして扱つた。Gras, N. S. B., *History of Agriculture in Europe and America*, 1925 (EE. 3877) (川端・本居譯「トキオの農業史」) Osgood, H. L., *The American Colonies in the 17th Century*. 2 vols. (*) Sanford, A. H., *Story of*

sm on a Barbados Plantation, 1710-1834. 1949 は史書として貴重である。W. J. Wyckoff, V. J., Tobacco Regulation in Colonial Maryland. 1941, Morton, L., Robert Carter of Nomini Hall: a Virginia Tobacco Planter of the 18th century. 1941 などがある。

なお植民地時代の社會經濟状態を知る上に逸するものとして Weeden, W. B., Economic and Social History of New England, 1891. 2 vols. (E. 107) Eggleston, E., Beginnings of A Nation, 1897, Transit of Civilization, 1900 がある。

四 獨立戰爭をめぐる諸問題

獨立戰爭は、アメリカ資本主義が自主的展開を遂げるための、第一革命であつた。對外的には、本國の重商主義的壓迫を排除し、また對内的には、本國の總督その他の高級官吏、本國と結ぶ、ニュー・ヨーク、中部植民地などの特權的大商人、半封建的大土地所有者など前資本主義的生産關係を擔う人々を驅逐し、若々しい資本主義發展のための途を清掃した民主主義的革命であつたと云いうる。しかし同時に、その革命の齎した革新性の限界もまた指摘されねばならない。パトリアトとして革命に参加した人々の中には、南部の大プランターをはじめ、密輸・奴隷貿易などで巨富を積む新興の商人階級など前資本制的階層があつた。彼らは、革命の間對英戰爭に協力するが、戰爭の終結と共に、都市手工業者、西部開拓農民など革命に命を賭した人々から指導權の奪取を圖り、所謂「危機の時代」を経てこれに成功するや、新興アメリカにおける新しい支配階級として登場するに至るのである。したがつて、獨立戰爭はいわば二重の過程として、すなわち進歩的な面と保守的な面とのこの二重の過程として描き出されねばならない。革命後北部資本主義は急速に發展するが、産業資本が全國的に統一した基礎の上に立ちうるのは、實は南北戰爭を俟たねばならなかつたのである。獨立戰爭に關する文獻は非常に多いが、一般的なものに次にあげる。

なるの歴史を述べた。先づ第一に Hacker, L. M., Triumph of American Capitalism (*) をあげなければならない。その著者は分析を今日まで価値観からつくりださぬ。その思想は政治的因を重視する文藝的である。Beard, C. A. & M. R., The Rise of American Civilization (AG. 3025. ZH₂₄ 1557) Alvora, C. H., The Mississippi Valley in British Politics 2 vols. 1917 Hacker, L. M., The First American Revolution (Columbia Univ. Quarterly, 1935)(*) Adams, J. T., Revolutionary New England, 1691-1776, 1923 (ZH₂₄ 1040) Jameson, J. F., American Revolution Considered as a Social Movement, 1926 (ZH₂₄ 2809) Andrews, C. M., A Note on the Economic Interpretation of the American Revolution, —, The Colonial Background of the American Revolution (ZH₂₄ 1915) などがある。その第一は政治的歴史観からつくりださぬ。Simons, A. M., Class Struggles in America, 1903 (ZH₁₆ 817) —, Social Forces in American History 1913 (ZH₂₄ 1110) O Neal, J., Workers in American History (*) などがある。

歴史観からつくりださぬ政治的歴史観。著者は歴史を多量に採り、Van Tyne, C. H., Loyalists in American Revolution 1929 Baldwin, A. M., New England Clergy and American Revolution, 1928 Eckenrode, H. J., Revolution in Virginia, 1916 Abernethy, T. P., Western Lands and Revolution, 1937 などがある。その第一は政治的歴史観からつくりださぬ。Clark, D. M., British Opinion and the American Revolution, 1930 Laprade, W. T., Public Opinion and Policies in 18th Century England などがある。

革命における商人の役割を重視したものである。Adams, J. T., The Role of Merchant and Radicals in the Revolutionary Era, 1931(*) Schlesinger, A. M., The American Revolution (New View Point of American History) (ZH₂₄ 1025) —, The Colonial Merchants and the American Revolution, 1763-1776, 1918 East, R. A., Business Enterprise in the Revolutionary Era 1938 (TB 3126) などがあるが、特に「ミッドランズカー」イーストの二書は、著者の商業資本と革命との關係を知る上に極めて貴重な研究といわねばならぬ。ここで序ながら、最近のハーバーマ・ビズネス・スタールの企業史研究の成果の中から、當時の商業資本の形成について利用しているものをあげれば、史料として役立つものは Gras, N. S. & Larson,

H. M., eds., *Case Book in American Business History*, 1939 (*) が、その他 Porter, K. W., John Astor, *Business Man (+)* -, *The Jackson and Lee : Two Generations of Massachusetts*, 1765-1844 (*) Gras, N. S. B., *Massachusetts First National Bank of Boston, 1784-1934* (*) Baxter, W. T., *The House of Hancock : Business in Boston, 1724-1755* Hidy, R. W., *The House of Baring in American Trade and Finance : English Merchant Bankers at Work, 1763-1861* (*) など、貴重な研究が最近多く刊行されている。なお邦文では、鈴木圭介「アメリカ獨立戦争の經濟的背景」(「立教經濟學研究」二の二) 鳥羽欽一郎「獨立戦争における商業資本の意義」(「早稻田商學」一〇〇號) 藤原守胤「アメリカ革命史論」(昭二四) などがある。

米國史において、憲法成立史及びその解釋は重要な問題となつてゐる。一七八三年のパリ條約により十州は獨立したが、諸邦間の關係は連合規約の下におけるルーズな同盟關係にすぎず、各邦の主權はそのまま在置され、連合會議はその決議を強制することも、違反者に對する制裁を行うことも不可能であつた。また平和回復と共に到來した經濟不況は、各邦間の關稅政策の不統一などからその打撃も大きく、商人たちの不滿は増し、かれらは國內での圓滑なる取引の自由に對する保證を要求し、また他方では、農産物價格の下落による農民の困窮は増大した。獨立戦争自體、植民地内部における社會革命という面を有していたが、この戦後の不況期に、革命中共通の敵に對して戦つてきた東部の商人・投機業者などの有産階級と、西部の農民・職人・手工業者など一般大衆との間の對立は激化し、ダニエル・シェイズの反亂にみられるように「危機時代」を通じて再び社會革命という様相を示すに至つた。

かくして、一つには、關稅政策、州際商業、通貨政策など廣汎な活動領域を欲する商業資本の要求にたえる強力な經濟政策に對する要求と、もう一つは、過激に走る大衆の革命的勢力を抑壓するために、東部・南部の有産階級―大商人、プランター、投機業者、製造業者、海運業者―は弱體な連合を解體し鞏固な中央政府の設立を計畫し、憲法制

定への途を推進させるのである。憲法制定の立役者をみても、ジョージ・ワシントンがヴァージニアの大地主、アレクサンダー・ハミルトンが北部商業資本—金融業者の代辯者、ジェームス・マディソンもやはり貴族的階層の出であり、また憲法制定會議の出席者も、大部分が公債、製造業、商業、海運業、プランテーション、投機業に利害關係を有するものであり、革命中急進派として闘つた人々が参加しなかつたことは、成立した合衆國憲法ひいてはアメリカにおける社會的階級構成がいかなるものであつたかを示すものであらう。

もつとも憲法の成立には、各邦の批准を必要とした。各邦のもつ地理的・經濟的諸條件、さらには當時の各邦における社會階層の性格などによつて、この過程は極めて多難なものであつた。こうした事情は、各州の經濟的發展段階との關連して考察することが重要であり、またこの時發生したフェデラリスト、アンティ・フェデラリストという政黨組織展開の研究は、この米國政治史の解明にとつても重要である。

憲法成立に關する研究史として便利なものは、The Declaration of Independence and the Constitution (Problems in American Civilization) 著者、敗者といはれ、Poore, B. P. ed., The Federal and State Constitution, Colonial Charters and Other Organic Laws of the U. S., 2 vols. 1877 (ZH, 853) Farrand, M., The Records of the Federal Convention of 1787 4 vols. 1937 (ZH, 401) Ford, P. L. ed., Pamphlets on the Constitution of the U. S., 1888 (ZH, 1007) Wright, B. F., Jr. ed., Source Book of American Political Theory, 1929 (ZH, 1474; 1628) Thorpe, F. N., Federal and State Constitution, Colonial Charters, and Other Organic Laws of the States, Territories, and Colonies: Now or Heretofore Forming the U. S. of America, 7 vols. 1906 (ZH, 680) などである。

憲法成立の經濟史的研究といふ問題があるが、これに先づきなべ、Beard, C. A., An Economic Interpretation of the Constitution of the U. S., 1913 (ZH, 516) といふべし、その翌年、Simons, A. M., Social Forces in American History, 1913 (ZH, 1111) といふべし、これに續いては、Corwin, E. S., An Answer to the Economic Interpretation, 1914 (History Teacher's Magazine)

(*) の地域がある。その他憲法改正の歴史一般論として次のものをあげておく。

- Fiske, J., *The Critical Period of American History, 1783-1789*, 1888 (ZHG 888 AG 3115) Thorpe, F. N., *Constitutional History of the U. S. 1765-1795*, 1901 (ZH_g 863) Schlesinger, A. M., *New View Points in American History*, 1922 (ZH_g 1025) Schuyler, R. I., *The Constitution of the U. S.*, 1923 (ZH_g 142. 422, 949) McLaughlin, A. G., *A Constitutional History of the U. S.* (ZH_g 1291) —, *The Confederation and the Constitution, 1783-1789*, 1905 (ZH_g 1434) Jensen, M., *the Article of Constitution*, 1940 Hockett, H. C., *The Constitutional History of the U. S.*, 1776-1826, 1939 Farrand, M., *The Framing of the Constitution of the U. S.* 1913 (ZH_g 410, 1337) Smith, J. A., *The Spirit of American Government* (D. 556) Parrington, V. L., *Main Currents in American Thought*, 1920 (ZH_g 547, 754) Hart, A. B., *Formation of the Union, 1750-1829*, 1926 (ZH_g 1359) Farrand M., *The Fathers of the Constitution*, 1921 (AG. 3075の8) 大塚 憲次郎博士の著『McClwain, C. H., *The American Revolution*, 1923 Schuyler, R. I., *Parliament and British Empire* 1929 大塚憲次郎博士の著『McDonald, R. C., *Virginia Constitutional Convention of 1801-1802*, 1928 (ZH_g 1221) Erdman, C. R. Jr., *The New Jersey Constitution of 1776-1929* (ZH_g 1115) 大塚 憲次郎博士の著『George Washington, 1832 (ZH_g 3214) 大塚憲次郎博士の著『Hamilton, A., *The Federalist*. (ZH_g 476, 497) Adams, J. T. ed., *Hamilton principles; extracts from his Writings* 1928 (ZH_g 200, 425) Schchner, N., *Alexander Hamilton*, 1946 大塚憲次郎。

邦文では 藤原守胤「アメリカ建國史論」(四一六) が精しく、他に 川西誠「英領アメリカ植民地獨立直後の連合規約に関する研究」(「國學院政経論叢」二の二) 同「米國獨立當初の各州憲法」(「日本法學」一八の四) などがある。

獨立の達成にまつて合衆國に齎らされた經濟的結果の中で、最初にあげられねばならないのは、急速な西漸運動の發展である。植民の開始以來植民地は絶えず西方へと擴大し、既に獨立戰爭以前に、アルゲニー山脈以東の定住は終

つていた。パリ條約によつて、アルゲニー山脈からミシシッピーに至る廣大・肥沃な土地が合衆國の領土に認められるや、西漸運動は忽ちのうちに擴大していつた。南部の大プランター、金融業者・製造業者など東部の富裕階級の壓迫を脱し、自由を求める人々は、大きな流れをなして西部に進んでいつた。こうして廣大・肥沃な西部の土地を、丁度滿ちくる潮のごとく、獨立自營の農民達で滿していつたのである。しかしながら、西部の土地は、自由を求める農民達をひきつけたばかりではない。當然、利欲に群る蟻のような投機業者や、棉花生産の擴大によつて土地を求める大プランター達の、利潤追求の對稱ともなつたのである。土地投機をめぐる東部の金權階級と農民との戦い、プランターと農民との戦いが、獨立戦争以後南北戦争に至るまで絶えずくり返され、そうした中で、次第に西部農民の政治的勢力の増大が、ジェファソニアン・デモクラシイ、ジャックソニアン・デモクラシイの名の下に、米國經濟史を大きく轉回させてゆくのである。

かかる西部農民勢力の擴大は、政府の公有地政策の上に反影されている。一七八五年の公有地條例に始り、一八六二年の家産法に終る一連の政府の政策の變化は、こうした西部の成長という基盤の上に、經濟史的に重要な問題を提示している。勿論、土地を廉價に働く農民の手に與えるというスローガンの實現は、多難を途を辿つたのであるが、西部農民が着々と獲得して行つた勝利こそが、アメリカ資本主義の展開を、水平的にも水直的にもさせていつたのである。以上の意味で、米國資本主義成立史上のこの構造的問題を考える際に、西部の問題には絶えず深い關心を拂わねばならない。

南北戦争後の一般經濟狀況 *General Economic Conditions*, Abernethy, T. P., *Western Land and the American Revolution*, 1937 Adams,

H., *History of the U. S. during the Administration of Thomas Jefferson*, 9 vols. 1889-1891 Coxé, Tench, *A View of*

the U. S. of America, 1794 L. A. F. de Beaujour, *Sketch of the U. S. of North America*, 1814 Nevins, A., *The*

American States during and After the Revolution, 1775-1789 Pickin, T., Statistical View of the U. S. 1835 442頁
 46頁。

- 田澤廣通・田澤秋正の著作、本誌血書に於て Turner, F. J., & Merk, F., List of References on the History of the West, 1922 442頁、Alden, G. H., New Government West of the Alleghenies before 1780 (BC. 3755) Billington, R. A., & Hedge, J. B., Westward Expansion, 1950 (AG. 3150) Bond, B. W., The Civilization of the Old Northwest, 1934 Bolton, H. E., Texas in the Middle 18th Century 1915 (ZH₂₄ 925) Branch, L. D., Westward, 1930 Coman, K., Economic Beginnings of the Far West, 2 vols. 1925 (E 1212) Flint, T., History and Geography of the Mississippi Valley, 2 vols. 1828 Paxon, F. L., The History of American Frontier, 1763-1893, 1924 (ZH₂₄ 1420) Riegel, R. E., America Moves West, 1930 Turner, F. J., The Frontier in American History, 1920 (AG. 2126)―, Rise of New West, 1819-1829, 1906 (ZH₂₄ 1434) 442頁、カーナー・ヤタケンの著『西開拓の歴史』に於ての西開拓 Goodrich, C. & Davidson, S. ④ The Wage-Earner in the Westward Movement (＊) The Frontier as a Safety-Valve (＊) 442頁。
- 谷本武敏著『西開拓』 Hibberd, B. H., A History of Public Land Policy, 1924 (ZH₁₇ 856. ED. 375) 444頁、聖山 Hill, R. T., The Public Domain and Democracy, (D. 716) Peffer, E. W., The Closing of the Public Domain, 1951 Robbins, R. M., Our Landed Heritage, the Public Domain, 1776-1936, 1942 Johnson, V. W. & Barlowe, R., Land Problems and Policies, 1954 (EE. 4984) 442頁、田澤廣通 History of Land Question in the U. S. (A. 82) Stevenson, G. M., The Political History of the Public Land from 1840 to 1862, 1917 Treat, P. J., National Land System, 1785-1820, 1910 (ZH₁₇ 506) Zahler, H. S., Eastern Workingmen and National Land Policy, 1829-1862, 1941 (＊) 442頁、443頁。444頁、17世紀初頭の西開拓と西開拓者の組織化の歴史 Baily, K. P., The Ohio Company Papers, 1753-1817. Being Primarily Papers of the "Suffering Traders" of Pennsylvania 1947 Bingham, R. W. ed., Holland Companies Papers, Reports Jaseph Ellicott, 1797-1821. 1941 ④ 田澤廣通の著作に於て引用される。